

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.1

1 事業名 : ささえ愛・助け合い・分かち合い 笑顔のびっちゅうサポート事業

2 実施団体名 : NPO法人大島まちづくり協議会

3 協働担当課 : 健康福祉課長寿社会班

4 事業概要

NPO法人大島まちづくり協議会がプラットフォームとなり、地域で支え合いを広め、地域の皆さんのニーズに応え、地域の共助、助け合いシステムの構築を図り、高齢者が生き活きと暮らせる地域づくりに努めた。

5 事業の流れ等

(1) 「びっちゅう・いきいきサロンシンポジウム」の開催

- ・高齢化や人口減少・過疎化による問題を抱える地域の自治体の方々に集まっていただき、高齢者が生き活きと暮らせる支え合い体制づくりをテーマとした講演や意見交換を行い、地域コミュニティの再構築を図る体制を検討した。
- ・開催日時 平成27年10月12日(月)9時~15時
- ・開催会場 大島海に見える家
- ・講師 学校法人山陽学園大学 総合人間学部教授 隈元貴美子先生

(2) いきいきサロン事業

- ・毎月4回「いきいきサロン」を開設し、生きがいつくり、健康維持、引きこもりの解消、交流促進に努めた。
- ・いきいきサロンは、食事部門といきいき部門で構成。
- ・食事部門では、参加者に昼食を振る舞い、食後はコーヒーと手作りケーキで、談話を楽しんでいただいた。
- ・いきいき部門では、グラウンドゴルフや、手芸講座など、さまざまなイベントを催し、健康維持と交流促進に努めた。
- ・遠距離からのサロン参加者のべ600人をレンタカーで送迎した。

(3) 3世代交流事業

- ・「ふれあいフェスティバル：新田干拓 歴史と自然ふれあいウォーキング」(地域住民皆健康事業)を実施し、地域の歴史伝承に努めるとともに、小学生・保護者・祖父母等112名が3世代の交流を図った。
- ・地域の伝統行事への参加と参加促進。

- ・11月22日には、耕作放棄地を再生した田畑から収穫した米や野菜や海の漁獲に感謝し、「秋穫祭」を実施。1,000人を超える老若男女が集い、交流の輪を広げた。このイベントには、山陽学園大学の教授及び学生にも参加していただき、地域住民との交流が図られた。

(4) 高齢者の日常生活の安全確保事業

- ・見守り体制確立事業として、いきいきサロンでの相互扶助はもとより、「ゲートキーパー」の役割や、現況の聴き取り等の機会を作った。
- ・地域の住民の皆さんに活動理念を理解してもらうため、平成27年12月16日には、山陽学園大学の古川先生を招へいし、民生委員と愛育委員の合同研修会を開催するなど、超高齢社会に備えた体制づくりに努めた。

6 成果・効果

本事業を山陽学園大学の教授及び学生たちと協働で実施したことで、地域の高齢者の方々の豊富な知識、経験に加え、学生の新しい発想を取り入れることもできるようになり、生き活きとした地域コミュニティを作り出す力を得ることにつながった。

7 今後の課題等

大島地域は、温暖な気候風土に恵まれ、古く縄文の時代から栄えていた地域であり、この地域をさらに活性化し、地域力を向上させていくためには、多くの関係者の支援、協力を得ながら、地域資源を活用して、こころ豊かに暮らせるまちづくりを進めていく必要がある。

今回の事業を実施することにより、地域の課題を地域力の向上によって解決する共助のシステムを構築するための契機を得ることができたので、今後は、今回の事業の内容をさらに継続・発展させ「地域コミュニティ再生事業モデル」の確立につなげていきたいと考えている。

さらに、当地域における問題解決のみを最終的な目標とするのではなく、同様の問題を抱える他の地域に対しても、当地域で培った事業モデルのノウハウを伝承するとともに、情報交換・相互啓発等を通じて、他の地域とともに共通課題の解決策を検討していきたいと考えている。

8 実施状況



いきいきサロン シンポジウム



いきいきサロン



自然ふれあいウォーキング



秋穫祭



©岡山県「ももっち・うらっち」

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.2

1 事業名 : きらめき生活支援協力隊事業

2 実施団体名 : NPO法人NPOきらめき広場

3 協働担当課 : 健康福祉課長寿社会班

4 事業概要

高齢者がいつまでも健康であり続けられるように「出前健康サロン」を開催し、医師・看護師等の専門職員が最寄りの集会所でミニ講演や一口健康サポートを実施し、住民の健康寿命意識を高めた。

また、住民が支え合い高齢者が住み慣れた地域で安心していつまでも暮らせるように「ちょっとした困りごとの生活支援と安否確認」を実施し、要支援登録者を対象として庭の草とりや除草剤散布などの生活支援や安否確認を行った。

5 事業の流れ等

(1) 出前健康サロンの開催

- ・ 6月23日 第1回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 高野集会所 ・ 参加者数 : 3人
- ・ 6月25日 第2回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 下野部集会所 ・ 参加者数 : 30人
- ・ 8月20日 第3回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 上野部振興センター ・ 参加者数 : 13人
- ・ 9月17日 第4回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 大芽集会所 ・ 参加者数 : 19人
- ・ 12月9日 第5回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 公民館野原分館 ・ 参加者数 : 16人
- ・ 1月26日 第6回出前健康サロンを開催
 - ・ 場所 : 矢田谷集会所 ・ 参加者数 : 13人
- ・ 2月3日 地域交流会(テーマ:目指せ!「生涯現役」)を開催
 - ・ 場所 : きらめき広場・哲西 ・ 参加者数 : 130人
 - ・ 内容 : 健康運動指導士による健康体操、医師による健康寿命の講話、参加者同士の交流タイム、健康づくりゲームなど

(2) ちょっとした困りごとの生活支援と安否確認の実施

①生活支援アンケート調査の実施

訪問調査等件数：372件 回収済み：200件

②要支援者の登録

登録者数：11人

(内訳) 一人暮らし世帯5人、高齢者世帯3人、障害者世帯3世帯

③生活支援協力者の登録

登録者数：20人

④ちょっとした困りごと生活支援事業の実施件数

件数：14件(延べ28時間)

内容：庭の草とり、除草剤散布、蜂の巣取りと花の木の取り込み など

6 成果・効果

(1) 出前健康サロンの開催

住み慣れた小さな地域を単位として、和やかな雰囲気のもとで開催することで、健康づくりの推進がごく身近な課題であることを参加者に再認識してもらうことができた。また、情報交換を通じて参加者からきめ細かい情報提供があり、安否確認や状況把握ができた。さらに、地域の全面的な協力を得て実施したので、参加者自身が地域の担い手でもあるという自覚が広がったようであった。加えて、地域交流会は、広い地域の仲間が一同に会したことにより、日頃、疎遠になっていた、知人等と再会し、お互いの小地域の状況を話題にすることによって、課題の共有や一体感・支え合い意識等の醸成の糸口がつかめた。

(2) ちょっとした困りごとの生活支援と安否確認の実施

生活支援アンケートを通じて地域の高齢者の実情を把握するとともに安否確認を行い、併せて、生活支援協力者の登録を進め、ちょっとした困りごとの生活支援の事業を実施した。支援を受けた人の満足度は高く、翌年の予約が入るなどしており、サービスの利用希望は徐々に増加しつつある。

7 今後の課題等

(1) 出前健康サロンの開催

今後の展開の方向としては、地域集会所の活用や地域の自主運営への誘導を通じて地域・回数の拡大を図るとともに、ミニデイサービスとの協働・連携を通じて広域交流サロンの充実を図っていくことが考えられる。

(2) ちょっとした困りごとの生活支援と安否確認の実施

今後の展開の方向としては、掃除、洗濯、買物、食事など新たな分野への支援範囲の拡大を図っていくことが考えられる。なお、内容によってはシルバー人材センターなど他の組織に依頼する方が良い場合もあるので、相談に対するコーディネートの方法が検討課題として挙げられる。

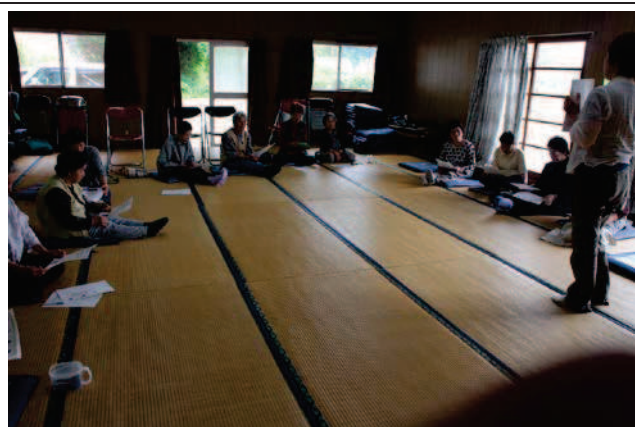
8 実施状況



出前健康サロン



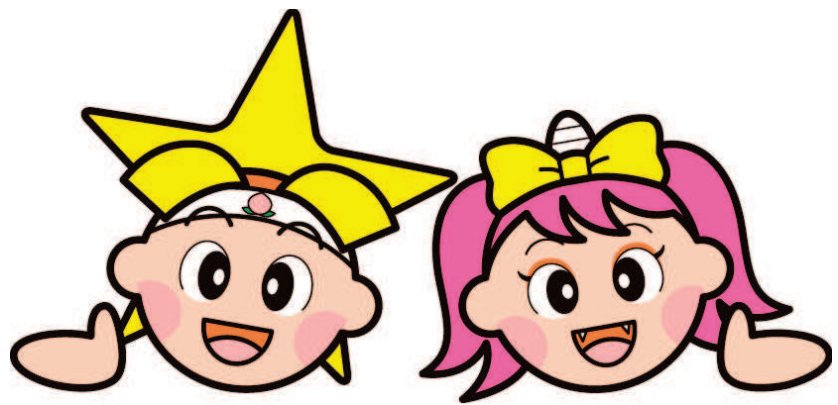
出前健康サロン



出前健康サロン



ちょっとした困りごとの生活支援



©岡山県「ももっち・うらっち」

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.3

1 事業名 : 高齢者パワーを地域で生かし、健康寿命延伸

2 実施団体名 : にいみフォーラム

3 協働担当課 : 新見地域保健課地域保健班

4 事業概要

高齢化が進んでいる新見市では、高齢者がいきいきと元気に年を重ねる健康寿命の延伸が重要課題となっている。そのため、高齢者自身が支えられる側ではなく、今まで培ってきた知識や経験を活かして社会を支える側になるよう、個々の高齢者の健康づくりへの意識を変えるとともに、地域コミュニティの絆を強化するため、シンポジウムを開催し、地域で活動している他団体に健康づくりを普及啓発する。

5 事業の流れ等

(1) 会議

| | | | |
|--------------|-----|--------|-----|
| ① 事業打合せ会 | 1回 | 参加人数 | 10人 |
| ② フォーラム運営委員会 | 10回 | 延べ参加人数 | 96人 |
| ③ 協働事業運営会議 | 8回 | 延べ参加人数 | 72人 |

(2) シンポジウム

日 時 : 平成27年10月16日(金) 13:00~16:00

場 所 : まなび広場にいみ 小ホール

参加人数 : 130人

内 容 :

○基調講演「高齢者パワーで健康長寿」～地域力で豊かな人生～

講師 鳥取大学医学部教授 尾崎 米厚

○パネルディスカッション

- ・ 栄養改善協議会福本支部
- ・ 健康運動実践者
- ・ 高尾長寿クラブ
- ・ 思誠地区社会福祉協議会
- ・ 正田がんこじいさんの会

(3) 啓発活動

- ④ シンポジウム記録集、啓発活動用資料、啓発活動マニュアルの作成
- ⑤ モデル地区での啓発活動 4回 延べ参加人数 80人

6 成果・効果

シンポジウム実施後のアンケートでは、地域の健康づくりに取り組めそうかという問いに対し、できるが23%、みんなと一緒にだとできるが67%だった。基調講演の中で、健康づくりに取り組むということは、自分で特別に何かを始めることではなく、地域社会の中で、みんなで生き甲斐や役割を見出すことも健康づくりへの貴重な一歩になるということが理解されたように思う。

また、高齢者の力を地域力と感じ、生き生き活動しているのに感動した。人のためになるだけでなく、自分のためにもなり、生き甲斐のある生活をして元気に過ごしたいなどの意見が出ており、住民主体で健康づくりに取り組む活動の大切さが認識された。

運営会議を何度も実施する中で、にいみフォーラムの会員自らが何をすべきなのかを自覚することができ、シンポジウム終了後も、普及啓発をするための方策を考え、会員用マニュアルを作成するなど、積極的に活動に取り組む姿勢が見られた。

7 今後の課題等

新見市健康づくり課、地域包括支援センター、社会福祉協議会がそれぞれに地域で進めている健康に関する事業と、どう連携をとっていくかがとても重要である。すでに、地域の中では、一緒に事業を進めているところもあるが、新見市全域にまで広がっていないので、地域差が出ないように、市全体へ活動が波及するような体制をとる必要がある。行政だけでなく健康づくりをテーマに、いろいろな地域活動団体とネットワークを形成するためには、無理せず、楽しみながら地域を支えることができる活動を継続していかなければならない。

また、まだまだ地域の中で有能な人材が眠っている場合もあるので、そのような人材を発掘するとともに、いかに地域活動に参加してもらうようにするかを考える必要がある。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>シンポジウム会場</p> | <p>開会あいさつ</p> |
|  |  |
| <p>尾崎先生講演</p> | <p>シンポジウム①</p> |
|  |  |
| <p>シンポジウム②</p> | <p>質問者</p> |



©岡山県「ももっち・うらっち」

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.4

- 1 事業名 : 備中矢掛まるごと博物館
- 2 実施団体名 : 備中矢掛宿の街並みをよくする会
- 3 協働担当課 : 地域づくり推進課市町村連携班

4 事業概要

備中矢掛地域には先人から受け継いだ豊富な歴史遺産や文化遺産があり、これらを現代の視点から新たに見直し、地域全体を「まるごと博物館」としてとらえ、この地域を理解し、この遺産を後世へと引き継いでいくため、地域遺産を巡るツアー、伝統芸能（備中神楽）上演、古代山陽道に関するシンポジウム開催等の各種事業を実施する。

また、地域の文化遺産を紹介する冊子を作成し事業参加者等に配布するとともに、誘客を図るため入館証と名付けたスタンプラリー（事業に参加する度にスタンプ押印）を実施する。

5 事業の流れ等

(1) 神社仏閣ツアー

- ①開催日 第1回 平成27年10月4日（約15名参加）
第2回 平成27年12月13日（約15名参加）
第3回 平成28年2月7日（約30名参加）

- ②概要 地域遺産である神社仏閣等（大通寺、吉備真備公園、福武邸等）を巡るもの

(2) 備中神楽堪能会

- ①開催日 平成27年12月12日（延べ約300名参加）
- ②場所 やかげ町家交流館
- ③概要 伝統芸能である備中神楽を10時間にわたり上演するもの

(3) 古代山陽道シンポジウム

- ①開催日 平成28年1月24日（約150名参加）
- ②場所 矢掛町農村環境改善センター
- ③概要 「古代備中と山陽道」と題した大学教授による基調講演の他、町教育委員会職員等が地域の遺跡について発表するもの

(4) 備中菓子博覧会

- ①開催日 平成 28 年 2 月 7 日 (延べ約 400 名参加)
- ②場所 やかげ町家交流館
- ③概要 地域に伝わる伝統的な菓子等を集め、試食販売等を行うこと等により、その歴史、背景等を学ぶもの

6 成果・効果

- ・開催行事が複数回新聞等に取り上げられるなど、地域住民にとって普段気付かない地元の歴史的遺産を見直す契機となった。
- ・参加者数は行事によってばらつきがあるが、近隣地域から人が集まることにより地域活性化や観光振興に繋がった。
- ・年間を通して複数の行事を問題なく開催することにより、団体において行事開催に係るノウハウを蓄積するための貴重な経験とすることができた。

7 今後の課題等

- ・行事の開催地域が矢掛町に限られていたため、備中地域全域への広がりが望まれる。
- ・多くの行事が参加費無料であったため、今後も継続的に事業を実施するためには財源の確保が必要となる。
- ・実施団体が主となり企画運営を実施したが、団体としても人手が十分でなく、より円滑に事業を実施するため、例えば係員として高校生の参加を募集するなど、団体としてさらなる人員の確保が必要である。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>神社仏閣ツアー</p> | <p>神社仏閣ツアー</p> |
|  |  |
| <p>備中神楽堪能会</p> | <p>古代山陽道シンポジウム</p> |
|  |  |
| <p>備中菓子博覧会</p> | <p>チラシ</p> |



©岡山県「ももっち・うらっち」

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.5

1 事業名 : 高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発

2 実施団体名 : 一般社団法人水辺のユニオン

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

高梁川流域のトレイルルートの開発や、トレイルに関するシンポジウムの開催、オープンデータ活用のトレイルマップづくりを行う。

5 事業の流れ等

(1) ミーティング

- ・トレイルコースは、以下の3つのコースを設定
 - ①備中高梁臥牛山コース（高梁市内→備中松山城→高梁美しい森→豪渓）
 - ②吹屋往来とと道コース（高梁市成羽地区→吹屋地区）
 - ③倉敷川とともに歴史文化を辿るコース（倉敷美観地区→藤戸→児島）
- ・HPとFacebookを開設し、モニターツアーの参加募集を行った。

(2) トレイルコース下見調査・トレイル整備

- ・上記コースの下見を行い、倒木や雑草が密集している場所は、倒木除去などのルート整備を行った。

(3) モニターツアーの実施

①備中高梁臥牛山コース（参加者：10名）

- ・日時 : 平成27年10月4日（日）
- ・場所 : 高梁駅→備中松山城→臥牛山→高陣→吉備国際大学

②吹屋往来とと道コース（参加者：11名）

- ・日時 : 平成27年11月8日（日）
- ・場所 : 高梁駅→高梁市宇治地域センター

③倉敷川とともに歴史文化を辿るコース（参加者：15名）

- ・日時 : 平成27年12月5日（日）
- ・場所 : 倉敷駅→阿知神社→藤戸寺→熊野神社→五流尊瀧院→木見駅

(4) オープンデータマップの制作

- ・コースごとに実測し、オープンデータを作成。
- ・独自に立ち上げたHP上に、データを搭載し、情報発信を行った。

(5) 高梁川ミーティングの開催（高梁川流域学校の報告会内で実施）

- ・日時：平成28年2月6日（土）10:00～12:00
- ・場所：倉敷中央病院大原記念ホール
- ・参加者：100名
- ・内容：高梁川トレイルについて実施状況について報告するとともに、公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長から、トレイルの広め方等についてアドバイスをもらった。

6 成果・効果

- ・モニターツアー参加者から高い評価を得ることができ、「高梁川トレイル」が当初想定していた以上に魅力的な企画であり、「風土ツーリズム」という新しい価値を拓くことのできる商品だと確認できた。
- ・地域の人に案内人になってもらい、案内人を通じて、さらに地域の人とのつながりを広げることができた。

7 今後の課題等

- ・トレイルに考えていたルート内に私有地もあることが事前調査で判明。客観的な事前調査が不可欠である。
- ・また、ルート整備には時間と労力、費用がかかるため、トレイル整備の仕組みを検討する必要がある。
- ・トレイル参加者の体力や体調に対する配慮を徹底したプログラムを作る。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| 備中高梁臥牛山コース | 吹屋往来とと道コース |
|  |  |
| 倉敷川とともに歴史文化を辿るコース | 高梁川ミーティング |

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 6

1 事業名 : 「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用した
インターンシッププログラムの開発

2 実施団体名 : 龍の仕事展実行委員会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

「龍の仕事展」を活用し、大学生が自己啓発力・自己教育力・地域戦略を身につけることのできる人材育成プログラムを産-官-学の連携で開発する。

5 事業の流れ等

(1) 参加大学の拡大・学生の募集 (計32名)

今年度は管理体制を大学から事務局に移し、HPから直接学生が申し込み、学生が自らの意志で参加する方法に変更。4月には実行委員の各大学へ協力を打診。新たな大学に実行委員会への参加を依頼。6月上旬まで学生の募集をした。

ア 参加学生の所属大学 (6大学)

岡山県立大、倉敷芸術科学大、就実大、吉備国際大、くらしき作陽大、川崎医療福祉大

イ 実行委員会へ新たに参加した大学 (2大学)

中国学園大、就実大 → 実行委員会11大学に

(2) 事前研修・直前研修を開催 (会場: 備中県民局、倉敷天文館彰邦館)

昨年の倍の時間をかけて事前研修を実施。また新たに直前研修を今年度から追加で実施した。

ア 事前研修

キックオフセミナー・ケーススタディ等の内容で、1回約6時間、6月7日～8月17日までの間、補講を含め計4回実施、計32名が受講。

イ 直前研修

参加目標発表、龍の仕事展中の行動計画の作成等の内容で、1回約6時間、8月30日・9月6日で補講含め計2回、計32名が受講。

(3) 企業研修の実施

学生がエントリーシートに記入した希望企業と事前研修の評価により、担当する企業のマッチングを実施。7月16日～9月11日の間に26企業・団体で計31名の学生が会社訪問や工場見学等の企業研修に参加した。

(4) 「龍の仕事展2015」会場での接客・販売等の研修を受講

(会場：倉敷アイビースクエア内アイビー学館)

龍の仕事展中、朝・夕とミーティングを開き、皆の前でその日の課題と目標を発表、それに対し取り組んだ成果報告を毎日行い、反省と課題解決の方法を皆で考えるPDCAサイクルを回すプログラムを実施した。

9月13日～21日の間で実施し、計32名が受講・4名がサポートとして参加。

(5) 事後研修の実施 (会場：備中県民局、倉敷天文館彰邦館)

経験を後の将来設計やキャリア設計に反映できる事後研修(成果発表会)を開催。1回約5時間、9月27日・10月18日の計2回実施、計28名が参加。

本年度はプログラム全体に対し、参加条件を十分に満たした学生に対し研修修了証を、活動において優秀であった学生には優秀修了証を、必須の研修を受けなかったり参加日数が条件に足りなかったりした学生には参加証の3種を発行し学生の評価とした。

(6) 一般公開成果発表会の実施 (会場：倉敷商工会議所)

参加企業や一般の方々に対して、学生代表6名が成果発表を行った。またその成果発表のため、11月6日～11月30日の間、計8回の研修を実施。

6 成果・効果

龍の仕事展について、昨年に比べ1日祝祭日が少ない日程から目標を8,500人と予測したが、結果14,597名(前年度比131.1%)の来訪者を迎え昨年を上回った。更に、集中レジの売上も300万円を超え、過去最高(全体で3,677,687円)になり、昨年よりも更にプログラムの成果が数字になって表れた。

また、学生アンケートについて、本プログラムが自分の今後のキャリア設計に役立つと回答した学生が大半であり、人材育成プログラムとして大きな成果を残したと言える。

7 今後の課題等

(1) 全体のタイムスケジュールの見直し

参加学生の募集を5月中旬までに終えるスケジュールはかなり困難であった。結果、追加募集を再三行い、事前研修も4回行うこととなった。これを是正するには大学での事業説明を開催することが挙げられる。

(2) 募集の段階

ア 目的の明確化

昨年より大きく改善された。さらに明確にするためには大学での事業説明を開催することが挙げられる。

イ エントリーシートの充実

昨年より大きく改善された。メールのやり取りでは事務局からのメールを有効にさせることを徹底させる必要がある。

ウ 学生情報のスマート化

昨年より大きく改善された。申し込みの手順を解説するページを追加することでより改善される。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>HPでの募集</p> | <p>事前研修</p> |
|  |  |
| <p>企業研修</p> | <p>直前研修</p> |
|  |  |
| <p>龍の仕事展：ミーティング</p> | <p>成果報告会</p> |

1 事業名 : 玉島に一人でも多くのお客に来ていただく

2 実施団体名 : NPO法人 NPO法人備中玉島観光ガイド協会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

観光ガイドブックの作成、SNS等による観光情報発信等により、玉島の知名度アップと観光客の増加を図る。

5 事業の流れ等

(1) 玉島観光全書の作成

観光ガイドのためのガイドブック「玉島観光全書」を作成した。主な観光ガイド情報を冊子化し、資料的なデータはCDに格納して配布した。

(2) 観光情報発信

ネット（ブログ、HP、FB）による情報発信をほぼ毎日実施。また、観光コースを旅行業者へ適宜案内した。更に、他団体等の会議へ参加し、そこで団体の活動のPR等を実施した。

(3) お客さんに丁寧な案内

観光ガイド研修として、月2回の研修及び合宿研修を1回実施。また、小学校の出前講座を実施。観光客の要望を聞いて、ルート等を作成し、再度訪れたいような楽しいガイドを心掛けた。

(4) 受け入れ態勢の整備

観光客に合わせた資料の提供、駐車場の手配や商店との協働を進めた。

(5) 歴史勉強会を実施（6～10月まで毎月1回、計5回）

6 成果・効果

- ・玉島観光全書（観光ガイド用のガイドブック）の作成
- ・案内した観光客数3,867名 21年度比305%
- ・案内した修学旅行生（学校）が京都、大阪、奈良、山陰に拡大
- ・ネットでの観光ガイドの申込みの増加
- ・ガイド研修、歴史勉強会によるガイドの質の向上
- ・出前講座の実施（3校、310人）

7 今後の課題等

- ・他団体との更なる関係強化、他団体と共に玉島への集客を図る。
- ・地域課題解決による観光に係る環境整備（耕作放棄地・ミカン園の対策）
- ・新たな観光ガイドボランティア（後継者）の育成、募集

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>ガイドの様子</p> | <p>観光情報発信（F B）</p> |
|  |  |
| <p>玉島観光全書（CD）</p> | <p>ガイド研修</p> |
|  |  |
| <p>出前講座</p> | <p>歴史勉強会</p> |

平成27年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.8

1 事業名 : 大学留学生との交流をとおしての地域の活性化事業

2 実施団体名 : 輝け！江良元気会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

本事業は、大学留学生との交流をとおし、「地域のひと・もの・こと」を活用し地区住民の総意と工夫で地域の活性化事業を行う。

5 事業の流れ等

| | |
|-----------|-----------------------|
| 6月21日 | 田植え（参加留学生5名） |
| 8月1～2日 | ホームステイ（参加留学生10名） |
| 9月30日 | 保育園との交流＜栗拾い＞（参加留学生6名） |
| 10月11～12日 | ホームステイ（参加留学生12名） |
| 10月25日 | 稲刈り（参加留学生4名） |
| 11月8日 | ウェルカムパーティ（参加留学生60名） |
| 12月5日 | 若宮サロンとの交流（参加留学生6名） |
| 1月9日 | 保育園との交流＜凧あげ＞（参加留学生9名） |
| 1月17日 | 反省会 |

6 成果・効果

- ・事業を進める上で、準備や交流への参加などにより、地区の住民が互いに協力することができ、住民間の絆が深められた。
- ・住民が、留学生との交流で、気楽に話しかけるようになっており（特に子供たち）、国際理解が進んだ。
- ・ホームステイに参加した留学生が、この事業以外でも、頻繁に江良を訪れたり、メールなどでホストファミリーと頻繁に連絡を取り合うなど、自主的に交流を深めていた。
- ・この事業に影響を受けた住民有志が、神輿を60年ぶりに復活させた。秋祭りの時、ホームステイに参加していた留学生が、住民と一緒に神輿を担いで地域内を練り歩いた。

7 今後の課題等

- ・留学生との交流は、まだ始まったばかりであり、必ずしも十分なものとなっていない。交流が目的であることを再認識し、今後、住民と留学生の交流をより促進し、地域の活性化につなげるものとする必要がある。
- ・中学生や高校生の参加が少なかった。これからの時代を担う若者に、もっと気軽に参加してもらえるように考えなければならない。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>田植え 留学生に話しかける子どもたち</p> | <p>田植えをした場所に設置された看板 留学生と地域住民で作成</p> |
|  |  |
| <p>保育園との交流<栗拾い> 保育園児と交流する留学生</p> | <p>ホームステイ 祭りで地域住民と交流する留学生</p> |
|  |  |
| <p>稲刈り 刈った稲を束ねて天日干しにする</p> | <p>ウェルカムパーティ 全員で記念撮影</p> |

1 事業名 : 備中地域づくり実践講座の開催

2 実施団体名 : 備中田舎カレッジ連絡会議

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

高梁市及び新見市で、地域づくりの担い手を増やし、裾野を広げるための「地域づくり実践講座」を開催する。開催に先立ち、地元自治体や地域で活躍するキーマンの協力を得るため、ヒアリングを行う。

5 事業の流れ等

【高梁市】

6月11日 講座開催のための現地視察

8月5日 塾生募集開始（募集期間8月5日～9月4日）

8月20日 プレセミナー開催（場所：高梁市文化交流館）
参加者：20名

9月18日 第1回講座開催（場所：高梁市松原町）
参加者：21名（うち塾生7名）

10月15日 第2回講座開催（場所：高梁市宇治町）
参加者：26名（うち塾生7名）

11月19日 第3回講座開催（場所：高梁市成羽町吹屋）
参加者：23名（うち塾生6名）

12月18日 マイプランブラッシュアップ勉強会（場所：高梁市松原町）
参加者：12名（うち塾生7名）

2月1日 最終発表会（場所：高梁総合文化会館）
参加者：16名（うち塾生5名）

【新見市】

2月20日 意見交換会（場所：新見市内） 参加者：5名

6 成果・効果

【高梁市】

- ・塾生が、地域で活躍している方の講演を聞いたり、塾長からのプランやプレゼンに対する指導を受けることで、自分の地域で実践する等身大のプランを

作ることができた。

- ・カレッジに関わった塾生の中で一体感が高まるとともに、塾長、ゲスト講師など関係者との輪ができ、さらに人間関係が広がるきっかけ作りができた。

【新見市】

- ・地域への日常的な関わりを望む学生と、地域の方の想いとのズレを感じ、どこを繋いでいけば良いかが見えた。

7 今後の課題等

- ・地元の人を中心となってカレッジを運営していくことが重要であり、地元のキーマンの理解を得る必要がある。また、終了した塾生を、経験者としてカレッジに関わっていける繋がりづくりが必要である。
- ・開催に当たって、安定した塾生数の確保を図ることが必要である。

8 実施状況

| | |
|---|--|
|  |  |
| 高梁市 講座開催のための現地視察 | 高梁市 プレセミナー |
|  |  |
| 高梁市 第1回講座 | 高梁市 第2回講座 |
|  |  |
| 高梁市 第3回講座 | 高梁市 最終発表会 |